



<グアテマラ> 36年間におよぶ内戦の後、日本政府とUNDPが協力して、教員の育成や男女平等の精神に基づいた教育を推進するための政策づくりを支援しました。

私は、前は学校に通っていませんでした。今では毎日通っています。とっても楽しいです。たくさんのことが学べるし、文字も書けるようになったし、なんだか自分の世界が広がってきている感じがします。

We Thank You Because...



<インド> 識字率が低く、貧困にあえぐ女性が多い地域で、コンピューターの使い方から経営ノウハウにいたるまで様々なトレーニングを行いました。また、より多くの女性たちが融資を受けられるように、マイクロ・クレジット事業を円滑に行うためのソフトウェアも開発しました。

読み書きからコンピューターの使い方まで
いろいろなことを習いました。
今では、自分の会社を経営しています。
以前は夫に仕える嫁という立場ではありませんでしたが、今では家族や地域の人々からも一人の自立した人間として認められているのがわかります。

UNDP/日本WID基金

設立: 1995年

日本政府からの拠出総額(1995年~2007年): \$17,933,839*

* パートナーシップ基金(WID・GAD部分)からの支援も含む

プロジェクト総数: 75

プロジェクト実施国数: 53

日本語 www.undp.or.jp/undpandjapan/widfund/

英語 www.undp.org/women/japan/index.shtml



UNDP Gender Team
Bureau for Development Policy
United Nations Development Programme
304 East 45th Street, 6th Floor
New York, NY 10017



UNDP/日本WID基金

Progress for Women is Progress for All

世界の女性たちとともに...

UNDP/日本WID基金： 私たちは世界の女性たちを応援しています

1995年9月に北京で第四回世界女性会議が開催されました。189カ国の代表が集まり、ジェンダーの平等の達成と女性のエンパワメント*の推進をうたった「北京行動綱領」を採択しました。この精神をすべての途上国で実現するために、国連の途上国開発機関である国連開発計画（UNDP）と日本政府が協力して、UNDP/日本WID基金を設立しました。

「貧困人口の5分の3は女性や女兒」という統計が示すように、途上国の女性は過酷な状況に置かれています。しかしながら、水を汲み、食事の支度をし、子ども、老人、病人の世話をし、さらには現金収入も得て家計を支える——といった大切な役割を担っているのは女性です。まさに、途上国の貧困家庭の命綱となっているのです。女性のエンパワメントのために投資をすると、家庭、地域社会、そして国へ、さらには次世代へとその効果が波及すること、特に子どもの福祉が目覚しく向上することが多くの研究でわかっています。ジェンダー平等の推進と女性のエンパワメントは、それ自体が大切なゴールですが、「世界の貧困をなくす」という目標においても不可欠な要素なのです。

UNDP/日本WID基金は、職業訓練や識字教育のような女性たちの生活に直接役に立つプロジェクトから、身につけた知識やスキルをさまざまな場面で生かしていけるように、ジェンダー不平等の構造そのものを直し、女性のニーズが国の予算配分や政策に反映されるようなシステムを作るという、長期的な視点に基づいたプロジェクトまで、多様な支援を行っています。

*社会の中で自らの潜在能力を十分に発揮し、自分の望む人生を送ることができる能力あるいはそのような能力を身につける過程。

世界の約束：ミレニアム開発目標（MDGs）

2000年9月、ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の加盟国代表は、21世紀の国際社会が目指すべき方向性を表明した国連ミレニアム宣言を採択しました。その精神は「2015年までに1日1ドル未満で暮らす貧困人口を半減させる」「2015年までに教育における男女格差を解消し、ジェンダー平等と女性のエンパワメントを推進する」といった8つのゴール、MDGsに集約され、国際社会共通の開発目標になっています。



Winnie Byanyima
UNDP開発政策局
ジェンダー・チーム ディレクター

「女性支援は、貧困削減のための効果的な投資です」

私たちUNDPが女性に投資するのは、それが「正しいこと」だからです。ジェンダー平等は、ミレニアム宣言で表明されているとおり、そして女性差別撤廃条約や北京行動綱領を通じて世界中の政府によって合意されているとおり、世界共通の根源的な価値です。それだけではありません。女性に投資をすると、家族の健康、教育、そして生活の水準が目覚しく向上します。その効果は家族だけにとどまらず、国の経済にまで波及します。ジェンダー平等と女性のエンパワメントは、UNDPの使命である貧困削減、そしてすべての人々が尊厳のある人生をおくることをめざす「人間中心の開発」を実現するための鍵なのです。

We Thank You Because...

UNDP/日本WID基金は12年間の間に多くの国々で支援を行ってきました。
現地から「ありがとう」の声をお届けします。

KENYA ケニア



「貧しい生活から抜け出したい、社会を変えてほしい」。誰にもこの思いを聞いてもらえないと思っていたのに、声を上げる権利が私にもあることを知りました。今では自治体や地方政府にいろいろ要求できるようになりましたよ。

MDGsを知らない草の根レベルの女性たちに「開発はひとりひとりの権利である」ことをメディアなどを通して啓発し、行政に対しても積極的に意見を言うように支援しました。少しずつですが、女性の声を反映した政策が増えています。

LIBERIA リベリア



長く続いた戦争で何もかも失いましたが、マイクロ・クレジット*の融資のおかげで自分のお店を持つことが出来ました。今では定期的な収入があるので、子供たちも元気に学校に通っています。

14年間も紛争状態にあったリベリア。女性たちの生活が少しでも安定するように、事業を起こすためのトレーニングや、マイクロ・クレジット(小口貸付)サービスを提供しています。

*担保となるものを持たないので銀行から融資を受けることができない貧困者や女性たちを対象にした小額の融資制度。

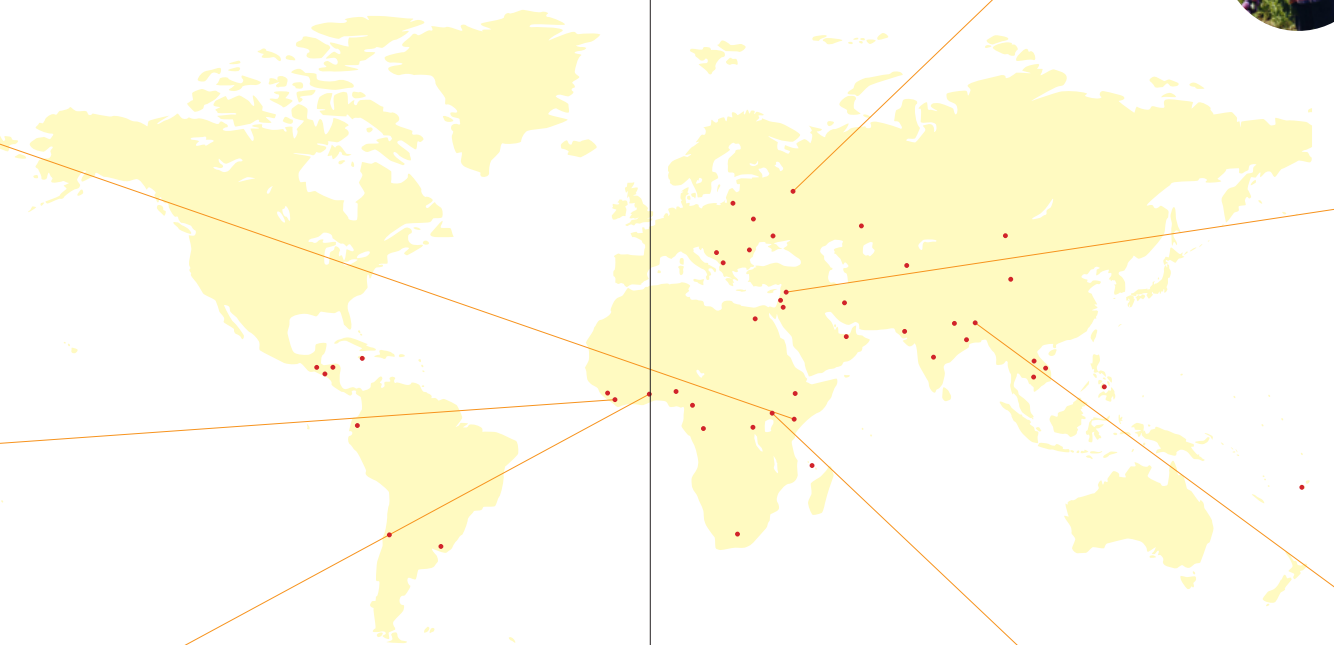
GHANA ガーナ



私は昔からシア・バター*を作って生計をたててきましたが、教室に通って字の読み書きができるようになりました。職業訓練も受けています。もっと売上げを伸ばして子どもたちを大学に通わせたいです。

ガーナ北部に住む女性たちの貴重な収入源であるシア・バターの生産と販売を助けるため、生産システムの改善、市場の開拓、ビジネス・スキルの訓練、品質の均一化を支援しています。

*アフリカのシアの木の実から採れる天然油脂。柔らかく、肌の潤いを保つので、保湿クリームや日焼け止めなどの原料として使われている。



プロジェクト・テーマの例

識字教育、職業訓練、女子教育促進、女性の起業支援、ITトレーニング、マイクロ・クレジット、女性の政治参加促進、母子保健医療、HIV/エイズ対策、女性に対する暴力対策、ジェンダーに配慮した予算、貿易の自由化が女性労働者に与える影響調査など

実施国の例

アジア・太平洋地域
インド、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、ラオス、カンボジア、中国、モンゴル、フィジーほか

アフリカ
リベリア、ガーナ、シエラレオネ、ウガンダ、コンゴ共和国、ルワンダ、ナイジェリア、エチオピア、南アフリカ、コモロ諸島ほか

ラテン・アメリカとカリブ諸国
グアテマラ、ウルグアイ、エルサルバドル、ジャマイカ、チリ、ホンジュラスほか

ヨーロッパ・CIS諸国
アルバニア、ルーマニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウクライナ、ベラルーシ、リトアニア、タジキスタン、カザフスタンほか

アラブ諸国
パレスチナ暫定自治政府、エジプト、シリア、ヨルダンほか

UKRAINE ウクライナ



農村地帯の10箇所にITセンターが設立されました。そして、農業を営む女性たちの相互支援ネットワークをオンライン化してもらいました。最寄りの役所ではもらえない情報もインターネットでアクセスできるようになったので、地域の女性たちから頼りにされ、気がつくと政治にも参加していました。都市化が進む今、ITセンターは若者をつなぎとめる町おこしの存在にもなっています。

ウクライナ女性農民評議会のためにITセンターを設立し、ITトレーニングを行いました。女性たちは農産物を海外にも輸出できるようになり、行政とのやりとりを通じて政治参加を果たしています。

SYRIA シリア



職業訓練でチーズやヨーグルトの作り方を学び、会社をおこしました。牛乳だけを売っていた時よりも収入が多くなりました。経済的に自立した今、家庭でもコミュニティでも一人の人間として尊敬されるようになりました。

職業訓練や働く女性を支援するネットワーク作りを行ったり、アラブ諸国や世界各国の女性支援の好事例をシリア国内に導入するなどの取り組みを行っています。

BHUTAN ブータン



私は山奥の農村で織物を織って生計をたてています。村から出たことがなかったのに、インターネットで私が作る織物が紹介されるようになりました。アメリカの国際見本市に出展することもできました。まるで夢のようでした。

織物職人の女性を対象に、技術の向上とITを利用した市場開拓を支援しました。山岳地帯のへき地に住む女性たちが世界とのつながりを持つようになりました。

UGANDA ウガンダ

「政府のお金の使い方は、女性のニーズに対応しているの？」税金の使い道は男性が中心になって決めているので、私たちのニーズが反映されている実感がないのです。この答えを見つけるべく調査をし、ロビー活動をしました。今では福祉政策に女性の声も反映されるようになってきました。

地方行政の予算編成ガイドラインの作成やロビー活動の訓練などを通じ、政策を作る段階から女性参加を促し、女性のニーズが反映された政策が確実に実行されるよう予算の確保を目指しました。地方レベルだけでなく、国のジェンダー政策の改定や実行計画の作成も支援しました。

実施パートナーの例

政府機関
南アフリカ福祉省、中国国家開発改革委員会、モンゴル財務経済省、チリ労働社会保障省、コンゴ女性省、ウクライナ起業促進国家委員会、エチオピア女性政治調整機関、アルバニア労働省、エジプト保健省ほか

ジェンダー平等委員会
南アフリカ、モンゴル、フィリピンほか

研究機関
国立経済政策研究所(南アフリカ)、アジア経営大学院(フィリピン)、キガリ科学技術マネージメント研究所(ルワンダ)、サセックス大学ジェンダー研究所(英国)ほか

研修機関
大統領府公務員研修アカデミー(ロシア共和国)

市民社会組織
チリ労働組合、シリア女性起業家委員会、自営女性労働者協会(インド)、アフリカ2000ネットワーク(ガーナ)、女性と民主主義フォーラム(ウガンダ)、ブータン女性協会、ACLEDAマイクロ・クレジット(カンボジア)ほか

国際機関
UNIFEM(国連女性開発基金)、UNCDF(国連資本開発基金)、ILO(国際労働機関)、UNCTAD(国連貿易開発会議)ほか

日本のパートナー
外務省、JICA(国際協力機構)